

第63回水道週間作品コンクール

大地からの宝物

江東区立第五大島小学校四年一組

中村 唯歩希 なかむら いふき

蛇口をひねると、勢いよく出てくる水道水。私は、当たり前のことだと思っ。ていたけれど、も、本当は貴重な大地からの宝物だった。六月。社会科の授業で「水はどこから」を学んだ。東京都水道局の人達がやって来て、東京都水道水について説明をしてくれた。

私が、この授業で最も印象に残ったことが
ある。それは、「高度浄水処理」だ。

高度浄水処理とは、目に見えない小さなバクテリアや臭いを、オゾンのかで分解し、取りのぞく働きだ。

「次はごこの機械で、オゾンの働きを見てみましょう！」

泥水をろ過し、高度浄水処理をする大きな水槽（オゾン接触池）に、プクプクと沢山の泡が見える。この泡がオゾンだ。オゾンのかで、水はほとんど透明に姿を変えていった。

私は水の変化におどろき、心の中で歓声をあげた。凄いよ、オゾン!!!

家に帰ってから、授業の最後にもらった、

「水道キャバハンパスポート」を何度も見た。

スマートフォンから見た水道水源林の説明では、水道水の元となる雨水を山の中にためるだけでなく、雨水を、土の中できれいにしながら、少しずつ川に流す働きをしていること。このことから、水道水源林は「緑のダム」と呼ばれている。多くの人々が、森林の健康を守っていることを知った。

スマートフォンを片手に、部屋の中をグルグル回りながら、夢中になって三百六十度映像を観ていると、後ろからお母さんの笑い声が聞こえてきた。

「お母さんが子供の頃は、東京の水道水は薬臭いのが嫌だったけれども、いつから臭いが消えたのかしら?」

私は授業のことを思い出して、勢いよく答えました。

「それは、きっと高度浄水処理のオゾンの力
だよ！」

気になることは、調べてみたくなる。東京
都水道局のホームページを調べてみると、平
成元年に始まった高度浄水施設の整備は、二
十五年をかけて利根川の水を引いている、全
ての浄水場で、高度浄水処理を百パーセント
達成したこと。東京の水道水の品質は、ミネ
ラルウォーターと同じくらいだと知り、東京
都民の私は、少し誇らしい気持ちになった。

6

5

この高度浄水処理は、東京や大阪などの大
都市に限られている。たしかに、祖父母の家
に行くとき、水道水の臭いが鼻にツーンとする
のはそういうことだったのか……

みんなが安心して飲める東京の水道水は、
蛇口に届くまでに、沢山の山の人々に支えられて、
長い旅を続けてきた終着点なのかもしれない。

私は、今日も蛇口をひねり、水道水をコップ
に注ぐ。「東京の水をきれいにしてくれて
ありがとう」と感謝の気持ちを抱きながら。

「頂きます。あ、美味しい。」